

NPO:KAIN 活動と提案

NPO法人桐生地域情報ネットワーク
理事長 塩崎泰雄


Kiryu Area Intelligence Network
info@npokiryu.jp



NPO:KAINの活動履歴

- 昭和59年:朝飯会:渡良瀬クラブ21結成 (1984)
- 昭和60年:渡良瀬ネット運用開始、北関東一のパソコンネットへ
- 平成4年:ネットワーキングフォーラム桐生開催
- 平成7年:桐生広域インターネット協議会設立
- 平成8年:NTTとコミュニティーメーカ『連』開発
- 平成9年:ファッションタウン桐生推進協議会発足
- 平成11年~藤沢市・四日市・岐阜など各地で情報化について講演
- 平成11年:日韓インターネットテレビ会議
- 平成11年:ワダエミ衣装展『物語の衣装』桐生展開催
- 平成12年:町中大学協議会にて『地域情報化の提言案』作成
- 平成13年:1月 市民が考える桐生地域情報化マスタープラン作成
- 平成13年:5月 NPO桐生地域情報ネットワーク設立
- 平成13年:6月 厚生労働省委託事業:桐生プロジェクト
- 平成14年:5月 まちなか情報サロン・ファイバーカフェ開設
- 平成14年:7月 新・あすへの遺産プロジェクト
- 平成15年:10月 日経地域情報化大賞・地域情報化センター賞受賞
- 平成16年:5月 P2Pコンソシアム設立





情報化をあえて
小さい地域
“まちうち”で使う

NPO:KAINの活動目標

蓄積・発信

文化・歴史・自然・
人・産業・暮らし
etc

情報化を通して・まちづくり・人づくりのお手伝い

連携
協働

デジタルデバイス
作り手育成
利用者普及教育
ITリテラシー

行政・会社・地域
への情報化提言
実践

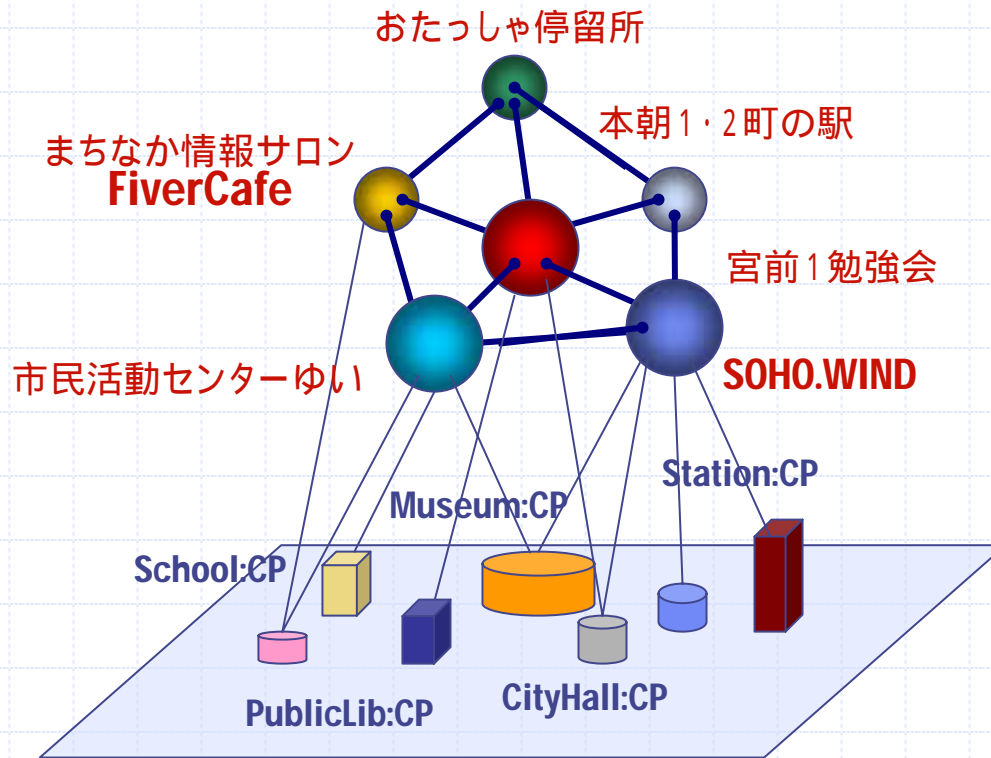
普及
教育

提言
実践

Kiryu Area Intelligence Network
info@npokiryu.jp



【自律分散協調Network 概念図】



【 Community Platform 】

【Community Platform】

“地域に根ざした活動拠点”をCPと呼ぶ。NPOなどの活動機会を「活動の場」(Community Platform)と定義する。

CPには、ハード面での既存の施設(公民館、図書館など)やソフト面での市民団体(婦人会、PTAなど)があるが、地域の情報ネットワークの拠点となる町内CP(ITを応用した『新しい隣組』)を構築することで、これらが自律しながら協調して都市や町のネットワークになり、『自律分散協調型ネットワーク』が形成される。

即ち、地域や住民の『ニーズとシーズ』がバランスよく結び付き運用される仕組みである。

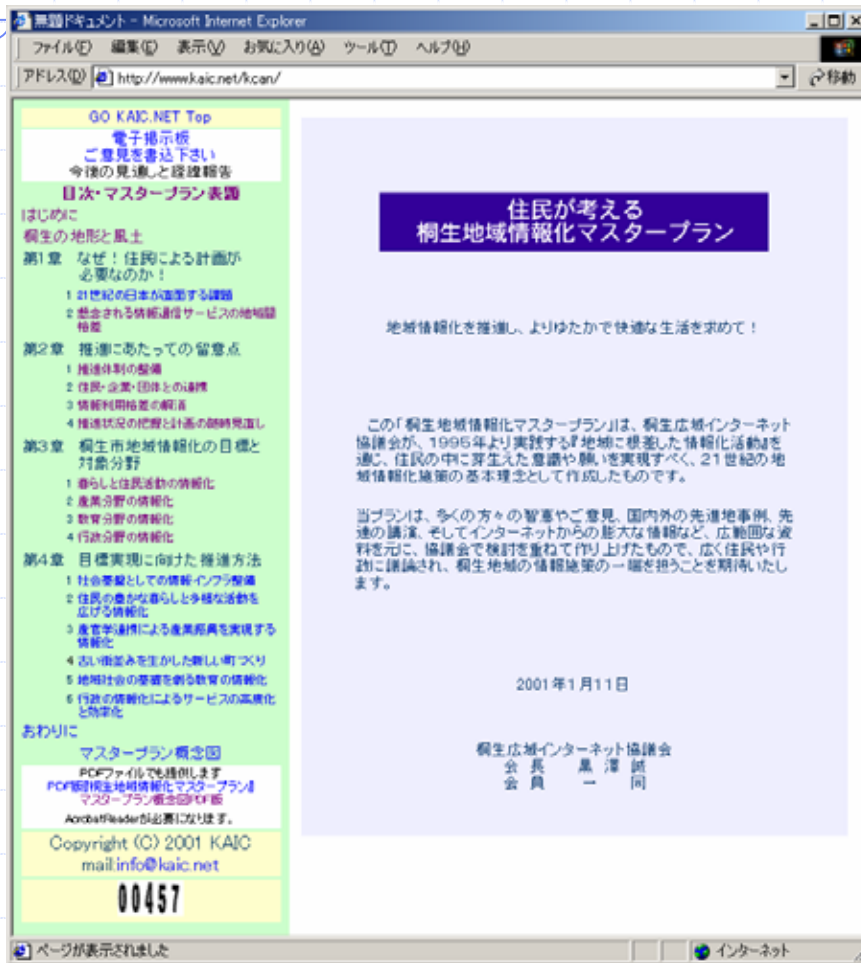
【コミュニティ・アーカイブズの定義】 (community archives)

地域固有の文化・歴史・人物・産業・環境などあらゆる物を後世に残し伝え、まちの文化遺伝子を大切に作る心や思想を、高齢者や体験者から聞き取り、それを編集・蓄積するプロセスから醸成する作業そのものを、『地域の文化遺伝子の蓄積』(コミュニティ・アーカイブズ)と定義する。

<http://www.kiryu.co.jp/waterwheel>



住民が考える『桐生地域情報化マスタープラン』



平成13年1月10日

協議会5年間の集大成として、桐生市に情報化マスタープランの提言をした

IT推進部門の設置など、行政の動きは注目に値する

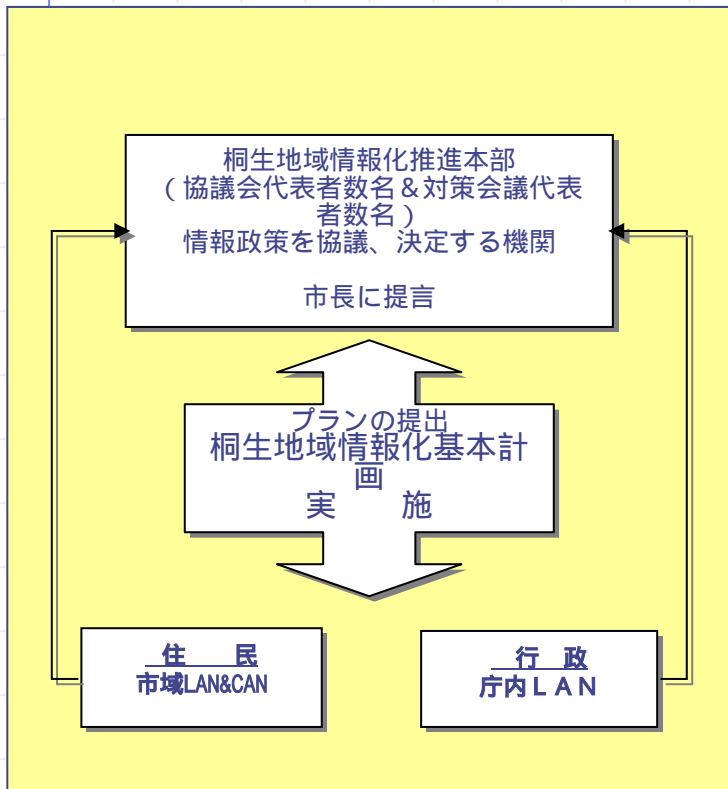
<http://www.kaic.net/kcan>



住民が考える 『桐生地域情報化マスタープラン』

推進にあたって留意すべき事項

- 1 推進体制の整備
- 2 市民・企業・団体との連携
- 3 情報利用格差の解消
- 4 推進状況の把握と計画の随時見直し



廉価な広帯域インフラ
無線LAN・移動体通信の誘致

社会基盤としての
情報インフラ
情報通信の整備
地域の格差解消

具体的な
推進施策

対象分野
と目標

産官学民ネットワーク運営組織

暮らしと 市民活動の情報化

市民の豊かな暮らしと多様な活動を広げる情報化

- One person one mailbox
- 広帯域な情報通信サービスの誘導
- 桐生市地域総合サイトの構築・運営
- Iネット桐生市民構想(仮称)の推進
- 本町1・2丁目のIT拠点化計画

産業の情報化

産官学民連携による産業振興を実現する情報化

- ITソフトウェア・デジタルコンテンツ作成企画力の支援
- 地場産業界の高度技術や製品群のデータベース化
- SOHO(スモールオフィス、ホームオフィス)の推進
- 観光インフォメーションセンターの開設

教育の情報化

地域社会の基盤を創る教育の情報化

- 多目的IT環境の住民解放
- デジタル・デバイドの解消
- 高度IT技術者の育成
- コミュニティ・アーカイブズの構築

行政の情報化

行政の情報化によるサービスの高度化と効率化

- 情報政策室の設置
- 桐生地域情報化基本計画の策定
- 産官学民との連携強化「(仮称)桐生地域情報化推進連絡協議会」の設立
- 行政のワンストップ・サービスの実現



桐生織物の調査研究 から新産業の息吹



Network



“まちづくり”のキーワード!!

1. 小さいこと

- ・鐘の聞こえる範囲(カンパネラ)
- ・見渡せる範囲
- ・小グループが沢山あること

2. 速いこと

- ・情報が速い
- ・決断が早い
- ・行動が早い
- ・評価が早い

3. 輝くこと

- ・独創的なこと、真似しないこと
- ・文化・自然に根ざしていること
- ・人間くさいこと

21世紀の“まち”を描く

循環型社会・持続可能な社会

“街”の大きさ・・・10万人程度

“志民”の暮らす“まち”

“伝統・文化・自然・ひと”を大切に
するまち

“まちうち”で使える道具が必須

『未来の子ども達に残せる“まち”』

ふるさとへ回帰する刷り込み

今年度の事業

1. お召し職人連続講演プロジェクト
2. 起業家育成プロジェクト
3. 桐生八丁撚糸機保存会
4. ファイバーカフェ運営
5. P2Pコンソシアム設立
 - ・100万人の回覧板+打ち水大作戦
 - ・アドホックモール・プロジェクト
 - ・ワイン日記運営

P2Pコンソシアム

1. 真のP2P (Brokerless)普及啓発
2. 産学官民が使える道具づくり
3. 自律分散協調ネットワーク
4. PublicなP2P-プラットフォームを作り
5. 理念共有>手弁当で参加・・・
<http://www.p2p-conso.jp>

主旨・目的

『P2Pコンソシアム』は、全国の産学官民と地域諸団体の参加協力のもと、ビジネス・行政・アミューズメント・地域情報化・学術研究などそれぞれの分野で、P2Pを用いた実験・検証、アプリケーション開発等を行う任意団体です。

各分野の中で、P2P技術とのマッチングを検討し、現実世界をより活性化させるツールとしての可能性を探り、新しいビジネスモデルの創造を目指しています。

さらには、各地域、他の多くの業界内でP2Pとの相性を目利きし、P2P技術の普及啓発を目的としています。

P2P技術と地域情報化

- ◆ **ブローカレスこそ地域活動の基本**
本来、地域活動にブローカは存在しない。これまで行ってきた地域情報化はブローカモデルだったからうまくゆかなかったのでは？
- ◆ **自立分散協調型のネットワーク**
地域コミュニティがゆるやかな連携をとってゆくツールとして適しているのでは？
- ◆ **この指とまれ方式の草の根活動**
熱意ある住民を中心に集まった人々が地域の活性化に必須。誰もが指を立てられるしくみが必要。

『提案・提言』

1) NPO支援が主体となれる支援を！

地域で活動するNPOが企画、立案、実行し、その後地域からの評価を収集し、さらにそれをもとに自己評価＆分析を行えるしくみ作り。

2) NPOへの評価の方法

地域での評判、口コミのネットワークによって地域がNPOを評価する(例えば、100万人の回覧板を使用)。

3) NPOの運営サポート

地域に認知されるまでにはNPOと言えども数年は必要。単年ではなく、継続的に活動できるサポート体制が必要(複数年での企画立案への支援など)。